

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970400170		
法人名	医療法人 景雲会		
事業所名	グループホームあずさ		
所在地	山梨県笛吹市春日居町国府436		
自己評価作成日	令和 3年 10月 18日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 3年 11月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様は一人一人のペースでホーム内でゆったりと過ごされている。近隣の方々と交流の場を少しずつ広げていく努力をしている。地域行事に参加して地域の方々と交流を含めている。(コロナ禍以前) 運営推進会議を2ヶ月に1回開催して、助言や意見をサービスの向上に活かしている。併設病院と医療の連携を取り、終末期の支援、看取りを行っている。5段階からなるスピーチロックの自己評価を作り、スタッフの意識付けを行っている。身体拘束等の適正化の為の対策を検討する委員会を設立し職員に研修を行っている。月1回の避難訓練、夜間防災訓練、火害を想定した防災訓練、地域防災訓練(コロナ禍以前)等に参加し入居者様が安全に避難できる様に職員が身につける努力をしている。キャリアパス勉強会を行いスタッフのスキル向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は同じ法人のリハビリテーション病院に併設され鉄筋コンクリート2階建ての1階と2階の2ユニットである。住宅、温泉旅館ホテル、商業施設等に囲まれた利便性の良い場所にある。月に1回、併設の病院から看護師など専門の職員に来ていただき、キャリアパス勉強会を行っている。8月は感染予防の研修。9月は高齢者虐待防止についての研修。10月は認知症についての研修を行った。夜勤以外の職員は勤務後に全員出席し、夜勤職員には別途職員同士で伝達研修をし共有している。現在はコロナ禍で控えているが、通常であれば外部からの講師により勉強会を行っている。日頃からスキル向上の意識を持ち続けていることが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームあずさ

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あずさ1F)	ユニット名(あずさ2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	合同カンファレンスにて職員全体で話し合い理念を決めた。理念を入口に提示、職員はネーム裏に入れていつでも見て実践出来る様にしている。	理念と目標を事務所入り口と事務所の中に提示し、職員はネーム裏に入れていつでも見られるようにして、常に意識しながら実践できる様にしている。	1. 入居者とスタッフが寄り添い、共にふれあい笑顔で楽しく過ごされる。 2. 拘束・虐待はしません。 以上2つの理念は目に入る場所に掲示し、職員間で共有するとともに実践している。 目標は「あずさ」にかけて、「明るく・ずっと笑顔で・最後まで」としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	あずさ便りを近隣に配布している。コロナ禍以前は地域の行事(どんど焼き、お祭り、防災訓練)に参加していた。	あずさ便りを近隣に毎月配布している。 地域の行事に例年参加して来たがコロナ禍の為、行事中止となる。	あずさ便りは隣近所や民生委員・自治会長に配布している。個人情報に掲載されているので、家族の同意を取り、限られた方への配布となっている。 コロナ禍のため、行事は施設内のみで行い、開催内容はお便りなどで情報共有を図った。通常であれば近隣の方を招待して開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣にあずさ便りを配布している。コロナ禍以前は地域の行事に参加して認知症の方への理解を深めて頂いていた。	近隣にあずさ便りを配布している。従来なら近隣を散歩したり、地域の行事に参加して認知症の方への理解を深めて頂いているが、コロナ禍の為出せず。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回開催している。入居者様の状況、活動報告等を行い意見、要望、指導をして頂きサービス向上に活かしている。	運営推進会議を2か月に1回開催している。ホームの状況、入居者様の様子、活動報告を行い、意見・助言・要望・指導をして頂き、サービス向上に活かしている。	蔓延防止期間は電話・文書でのやりとりのみで開催できなかったが、10月からは感染対策を行いながら運営推進会議を開催している。ただし利用者と利用者家族の参加は見合わせている。 地域活動の状況などについて意見交換し、事業所の面会方法等についてもアドバイスを受け、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者より日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿介護課長寿総務担当、地域包括支援センターの職員との連絡は常に取っている。 事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えて協力関係を築いている。	長寿介護課長寿総務担当、地域包括支援センターの職員との連絡は常に取っている。 事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えて協力関係を築いている。	施設長・ケアマネジャーが市町村との連絡の窓口となっている。問題が発生した場合は事業所内で検討した後、市町村窓口の担当に相談している。 日頃から会議の議事録を渡したりと、関係を持ちながら協力を仰いでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入口がロック式になっているが必要時解除している。 職員は身体拘束をしないケアを心がけている。スピーチロックに当たる言葉の一覧表を見て毎日自己評価している。 身体拘束等の適正化の為の対策を検討しつつカンファレンス等に取り入れ研修している。	拘束・虐待はしませんを事業所の理念(2)に定め、職員は身体拘束をしないケアを心がけている。スピーチロックに当たる言葉の一覧表を見て、毎日自己評価を行っている。 あずさ合同カンファレンス等に取り入れ、身体拘束について学習している。 2Fエレベーターの施錠は夜間のみとしている。	スピーチロックについては毎日振り返りを行い評価している。独自の書式でチェックし、より良い言い回し、言い方となるように考え改善を行っている。 センサーマットを利用し、立ち上がる前に介助できるよう対応している。 戸外には自由に出入りでき、職員の見守りの中で外気浴を楽しんでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待が見逃さないように注意を払い防止に努めている。スピーチロックを自己評価してカンファレンスにて言葉の虐待がない様、話し合いを行っている。	拘束・虐待はしません、は事業所の理念(2)に定めており、職員は虐待が見逃されないように注意を払い、防止に努めている。 スピーチロックを自己評価し、カンファレンスにて話し合いを行ったり、あずさ合同高齢者虐待防止研修会を行い、学習している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度について研修に参加したり、市町村連絡協議会に参加して研修を受けている。	去年は権利擁護制度の県の研修会に職員が参加し研修内容を他職員に伝達共有した。今年も研修を希望したが参加対象から外れたため、自主学習として勉強会を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、十分の説明を行い、また家族からの不安な事や疑問点を尋ねて理解納得を得ている。解約、改定時には、家族に連絡して理解、納得を得ている。	契約の際、十分な説明を行い家族からの不安な事や疑問点をたずね、理解納得を得ている。解約、改定の際には家族に連絡し、理解納得を得ている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームあずさ

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あずさ1F)	ユニット名(あずさ2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やホームからの電話時に意見や要望を聞き、それに沿えるように努力している。またご意見箱を設置している。コロナ禍以前は運営推進会議に入居者様、ご家族様にも参加して頂き、意見要望を伺っていた。	面会時やホームからの電話時、意見や要望を聞き、それに沿えるように努力している。また、ご意見箱を設置している。例年は運営推進会議にて入居者様、ご家族にも参加して頂き、意見要望を伺っていた。	利用者の要望は普段の会話の中から汲み取り、内容は申し送りノートに記録しておく。特別な対応が必要な場合は施設長に伝え、カンファレンス等で検討している。ご家族からは、運営推進会議や電話連絡をした際にご意見を伺い、意見があれば、カンファレンスで取り上げ検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス(ユニット毎各1回、合同1回)にて、職員の意見要望、提案を聞き、運営に反映している。また個人的な相談にも気軽に応じている。	カンファレンス時に、職員の意見要望・提案を聞き、運営に反映している。個人的な相談にも気軽に応じている。	ユニットごとと合同のカンファレンスが月に各一回あり、そこで意見を出し合う。利用者について・職員に関することについて・事業所の行事などについて意見交換し、運営に反映している。年に一回は個人面談があり、職員の意見を聞く機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各ユニットのリーダーが状況を把握し、リーダー会議にて管理者と情報を共有して、職場環境、条件の整備に努めている。	各ユニットのリーダーが状況を把握し、リーダー会議にて管理者と情報を共有して、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修には全員参加、外部研修については全員が受けられるように考慮している。キャリアパス勉強会を行いスキル向上に努めている。	法人内の研修には全員参加し、外部研修については職員が全員受けられるよう考慮している。またキャリアパス勉強会等を行い、スキル向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加して、他事業所に連絡を取るなどして交流に努めている。交流の中で、同業者の活動、取り組みを聞き、サービスの質の向上に努めている。	例年は外務研修に参加し、他事業所との協力の中で活動や取り組みを聞き、サービスの質の向上に努めていたが、コロナの影響にて事業所独自で勉強会を開き、サービスの質の向上に努めている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っている事や不安な事、要望等に耳を傾け、本人が安心出来るような関係作りに努めている。入居者様との関わりの中で、表情状態等から感じ取ったり聞いたりした事を情報として集め、関係作りに役立て安心出来る様に努めている。	本人の困っている事や不安な事、要望等に耳を傾け、本人が安心出来るような関係作りに努めている。入居者様との関わりの中で態度、表情等から感じ取ったり、聞いたりした事を情報として集め、関係作りに役立て安心出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や契約時に施設の説明を行い、家族からの要望、不安、心配事等を聞き、また入居後の面会時には状況状態等の説明を行いながら関係作りに努めている。	入所時、契約時に説明を行い、家族からの要望、不安、心配事等を聞き、また入所後の面会時には状況状態等説明を行いながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望、困っている事を聞き、今何が必要なのかを考えて支援している。	本人や家族の要望、困っている事を聞き、今何が必要なのかを考えて支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をしながら、喜怒哀楽を共に感じ、暮らしを共にしていると感じてもらえる関係作りを築いている。	介護をしながら喜怒哀楽を共に感じ、寄り添い、暮らしを共にしていると感じてもらえる関係作りを築いている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームあずさ

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あずさ1F)	ユニット名(あずさ2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	面会時には本人の状況状態を説明し、面会の少ない 家族には電話をする等して状況状態を伝えている。コ ロナ禍以前は面会を増やせるよう行事に参加して頂け るような声掛けを行い、本人を支えていく関係を築いて いた。	ユニット名の為、1階にて窓越しに面会を行い、本人の 状況状態を説明している。面会の少ない家族には電 話にて状態状況を説明し、本人に電話に出て頂いたり して家族とともに本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の面会時に、また来て頂ける様声掛けを 行っている。コロナ禍以前は家族が付き添い外出したり、 地域行事に参加して馴染みの関係が途切れない 様に支援していた。	例年は家族、友人等の面会もあり地域の行事にも参 加していたが、近年はコロナ禍の為、友人や親族の 方々との対応は電話や窓越しでの面会を行っている。	コロナで現在は対応できていないが、以前は馴染みの 美容院に行ったり、墓参りに外出することができた。 最近になって少しずつ友人・知人が会いに来ており、窓 越しではあるが面会の対応をしてこれまでの関係が継 続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	入居者様の生い立ちや性格を把握し、レクリエーシ ョンや行事を通し、入居者様同士の間に入りお互いに支 え合うような関係作りの支援に努めている。入居者様 同士のトラブルが無い様に見守りを行い、トラブルが あった場合は間に入りお互いの話を聴き問題解決に 努め支援している。	利用者様の生い立ちや性格を把握し、行事やレクリ エーションを通し入居者様同士のコミュニケーションが 良好、円滑に図れるよう努め、支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族の必要に応じて、相談や支援が出来る様 に努めている。	本人、家族の必要に応じて相談や支援が出来るよう 努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	入居時にADL表、サマリー、紹介状、ケアマネジャー より情報収集している。また、本人や家族の意向の把握 に努めている。 カンファレンス時に話し合い、情報を共有している。	入居時ADL表、サマリー、紹介状、ケアマネジャーより 情報収集に努めている。本人や家族の意向の把握 に努めている。 カンファレンス時に話し合い情報を共有している。	日常の利用者との会話の中で思いや意向を汲み取る。 言葉で上手く伝えられない方に対しては表情を見て判 断し、こちらから伝える際には、視覚的にも工夫して伝 えるように心がけている。その情報はカンファレンス等 により職員間で共有している。入居してから笑顔が増え 活動的になっている方も多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	本人や家族の会話から、また、サマリー、紹介状、情 報提供書等から情報を得たりして、生活歴や馴染みの 暮らし方、これまでのサービス利用の把握に努めている 。	サマリーや紹介状、情報提供から情報を得たり家族や 本人との日頃の会話などから生活歴やなじみの暮らし 方、これまでのサービスの利用の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方、心身状態、状況、有する 能力の現状把握に努めている。	1人1人の1日の過ごし方、心身状態状況、有する能力 の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	毎月モニタリング担当者が評価して、各ユニットでカン ファレンスを行い、意見やアイデアを出し合いお互いに 共有している。変化があれば見直しを行い、介護計画 に取り入れて作成している。	モニタリング担当者が毎月評価を行い、各ユニットのカ ンファレンスや合同カンファレンスにて、意見やアイ ディアを出し合い、お互いに共有して介護計画に取り 入れている。	利用開始から一か月程で管理者・ユニット責任者・施設 長で話し合い、介護計画の見直しを行う。モニタリング は毎月行い、見直しは3か月、6か月等状況によって 行っている。 モニタリングした内容はカンファレンスにあげて意見交 換し、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に勤務者が記録しており、必要な情報は申し 送りノートに記入して、職員間で共有して実践や介護 計画の見直しに活かしている。	ケア記録に勤務者が記録しており、必要な情報は申し 送りノートに記入し、実践や介護計画の見直しに活か している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームあずさ

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あずさ1F)	ユニット名(あずさ2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況やニーズに対応して、訪問美容室や訪問歯科への依頼、必要な物の買い物を代わりに行っている。 急変など医療が必要な時には付き添いを行っている。	本人や家族の状況やニーズに対応し、訪問美容室、訪問歯科への依頼、必要な買い物がある時は家族の状況により、代わりに行っている。 急変など医療が必要な時には付き添いを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年は、地域資源の把握に努め、一人一人が心身の力を発揮しながら安全な暮らしを楽しむことができるように支援していた。	例年は、地域資源の把握に努め、一人一人が心身の力を発揮しながら安全な暮らしを楽しむことができるように支援していた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、家族の意向を重視している。家族の希望により、かかりつけ医、または併設病院外来から内服処方、受診したりしている。訪問歯科受診も行っている。緊急時は職員が付き添うが、通常は家族に連絡して来て頂いている。	入居時に家族の意向を重視している。家族の希望によりかかりつけ医、または併設病院外来受診を行っている。緊急時の場合は職員が付き添うが、通常は家族に連絡して来て頂いている。	本人、ご家族の意向を重視しており、入居前からの主治医を受診している利用者や、併設の病院を受診している利用者がいる。受診の際は口頭または書面ですべて報告をしている。訪問歯科の受診もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職に報告、相談をして日常的に関わってもらっている。体調変化時にも相談し必要に応じて受診している。	看護職に報告相談し、日常的に関わってもらっている。体調変化時にも相談し必要に応じて受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時にはサマリー記入や報告を行い、安心して治療を受けられるようにしている。また病院関係者と情報交換、連絡を行っている。	入退院時にはサマリー記入や報告を行い、安心して治療を受けられるように病院関係者と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人、家族の意向を踏まえ、重度化や終末期に向けた方針の共有が図られている。医療が必要な時以外は、看取りも可能な事を入居時に説明している。急変時にはマニュアルに沿って、同法人の病院を受診、対応できない場合は、主治医の指示にて他病院に転院、治療を受けて頂いている。	入所時に本人、家族の意向を踏まえ重度化や終末期に向けた方針の共有が図られている。医療が必要な時以外は看取りも可能な事を入居時に説明している。急変時はマニュアルに沿って同法人の病院を受診、対応出来ない時は医師の指示に従い転院して頂いている。	重度化や終末期の対応に関して入居時に説明し、本人、家族と共有し、文書化して記録している。看取りとなった場合は併設病院の看護師や医師と連携し支持を受けている。急変時はマニュアルに沿って併設の病院を受診しているが、状況に応じて医師の指示により、転院等を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えたマニュアルを作成している。院内外の研修に参加したり、コロナ以前はキャリアパス勉強会にて消防署に行き、救急法とAED使用の講習を受けていた。	急変時や事故発生時に備えてマニュアルを作成している。コロナ禍の中、外部研修はないがカンファレンスにて話し合い、学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月一回の避難訓練マニュアルを実施し、入居者様が避難できる方法を職員が身につける努力をしている。夜間、水害を想定しての避難訓練マニュアルを作成し実施している。 法人内の防災訓練、コロナ禍以前は地域の防災訓練にも参加している。	月一回避難訓練マニュアルを実施し、入居者様が避難できる方法を身につける努力をしている。夜間・昼、水害を想定しての避難訓練マニュアルを作成し実施している。 同法人内の防災訓練にも参加している。	月に一回日を決めて、地震・水害・火災の訓練をしている。夜間想定もしている。併設病院と連携をとってスムーズな避難ができるように取り組んでいる。コロナ禍以前は地域の防災訓練にも参加し、連携をとっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重して、本人の誇りやプライバシーを損なわないように言葉遣い、口調に注意して対応している。スピーチロックの自己評価を毎日行い、毎月のカンファレンスにて話し合いを行っている。	一人一人の人格を尊重して本人の誇りやプライバシーを損なわないように言葉遣い、口調には注意して対応している。スピーチロックの評価を毎日行い、毎月のカンファレンスにて話し合いを行っている。	同じ苗字の方は下の名前前で呼んでいる。本人の希望で下の名前前で呼んでいる方もいる。日頃から言葉かけに注意して、強い感じの言葉が出ていた時は、職員間で話し合う機会を持ち、注意し合える体制をつくっている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームあずさ

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あずさ1F)	ユニット名(あずさ2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意図的な声掛け、話し方を行い、コミュニケーションを図り、信頼関係作りにも努め、本人の希望や思いが表出出来るように努めている。	意図的な声掛け、話しかけ、傾聴を行い、コミュニケーションを図り信頼関係作りにも努め、本人の希望や思いが表出出来る様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の出来る事は出来る限り行って頂き、本人の声を常に聴き、本人のペースに合わせた生活を送って頂いている。	本人の出来る事は行って頂き、本人の声を常に聴き、本人のペースに合わせた生活を送って頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれは自分で選べる方は本人に任せている。出来ない方は職員が支援している。洗面、整髪、歯磨き、髭剃りも見守りを行い、出来ない方には介助している。	身だしなみやおしゃれは、自分で選べる方には本人に任せている。出来ない方には職員が支援している。洗面・整髪・歯磨き・髭剃りも見守りを行い出来ない方には介助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、野菜切りなど出来る方には参加して頂いている。メニュー作成は業者対応だが、行事や誕生日会でメニュー変更したりして入居者様の意見も取り入れている。行事では外食会やお花見弁当、運動会弁当も取り入れている。	食事前にテーブル拭きを行って頂いている。業者メニューだが、行事や誕生日会には入居者様の意見も聞きながらメニューを変更したりしている。	テーブル拭きや野菜の皮むきなどできる方には参加して頂いている。食材を仕入れ事業所で調理している。行事食はいつものメニューを差し替え、誕生日は赤飯を用意する。 利用者の嗜好は普段の会話から理解しておく。 調理の加減も会話の中で聞き取り、食べ残しはないか、美味しく食べているか等、利用者にとって食事が楽しみとなる支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居時、好き嫌いを聴き、食事量、水分量が一日を通して摂取出来るように支援している。入居者様に合わせた食事形態にして提供している。食事量を記録し確認している。	食事や形態を一人一人に合わせて提供している。水分も一日を通して摂取出来るよう声掛け支援している。食事量、水分量を毎回チェック表に記入、摂取量を確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の歯磨きの声掛け、見守りを行い、口の中の汚れや臭いが生じないように支援している。出来ない方は職員が介助している。義歯の方は毎日ブラッシング、ポリドント洗浄を行っている。	朝・昼・夕の歯磨きの声掛け見守りを行い、口の中の汚れや臭いが生じないように支援している。義歯はポリドント洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を心がけ、失禁のある方は声掛け・場所の誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。排泄チェック表を記入して、排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。	トイレでの排泄に心がけ、失禁の多い場合は時間誘導し自立に向けた支援を行っている。排泄チェック表に記入して、排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。	オムツの使用は夜間は半数ほどであり、日中は皆リハビリパンツに履き替えている。 排泄パターンを把握しているため、パターンに沿ったトイレ誘導を行っている。トイレへの誘導は周囲に聞こえないように配慮して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量に配慮し、排便がない場合は日にちを確認して、医師より処方された下剤を投与。それでも排便がない場合は看護師により排便又は洗腸を行っている。おやつにヨーグルトを提供したり、レクリエーションで軽体操を行っている。	食事量や水分量に配慮し排便がない時は日にちを確認して、医師より処方された下剤を投与。それでも出来ない場合は看護職による排便・洗腸を行っている。また、レクリエーションで軽体操を行い、おやつにヨーグルトを提供したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しくするように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回個人の体調を考慮して、入浴されている。入浴を嫌がる方には時間を変えたり、対応する職員を変えたり工夫している。状態に応じて二人介助も行っている。入居者様の希望で入浴時間を変更することもある。併設病院内の機械浴に入浴される方もいる。シャンプーは備え付けであるが、私物を使用する方もいる。	週2回～4回、体調を考慮し、入浴されている。状態に応じて二人介助も行っている。併設した病院内の機械浴に入浴されている方もいる。本人の希望により入浴時間を決定している。	入浴は特浴(機械浴)の方は併設病院で入るので時間は決まっていない。一般浴は午後1時から3時の間である。 入浴拒否をされる方は着替えの際に誘導したり、清拭で対応している。本人が自発的に入れるように誘導を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、照明騒音などに注意して、安心して眠れるように支援している。また日中は個々にあった休息が取れる様に職員が支援している。	日中は個々にあった休息をして頂いている。昼夜室温に注意し、夜間はさらに照明に注意して、安心して眠れる様に支援している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームあずさ

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あずさ1F)	ユニット名(あずさ2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している内服についてはお薬手帳を確認している。また薬の変更があった場合は、申し送りノートに記入したり、口頭伝達している。一人一人が薬の目的や副作用、用法、用量について理解している。	服用している内服についてはお薬手帳を確認したり、薬局からのお薬の説明を読み、一人一人が薬の目的や副作用、用法用量について理解している。薬の変更があった場合は、申し送りノートに記入したり、口頭伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力にあった役割を行って頂き、達成感を持って頂ける様に支援している。また一人一人にあった楽しみ事、気分転換などの支援をしている。	一人一人の能力にあった役割を持って頂いたり、一人一人にあった楽しみごと、気分転換等の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、外気浴をレクリエーションで行っている。コロナ禍以前は普段行くことができない場所に行事で出かけた。家族と出かけた。また週一回の食事購入時には順番で職員と出かけていた。地域行事に参加され屋外で地域の方と交流していた。	例年は散歩や行事、食事会等で屋外に出られるよう努めてきたが、コロナの影響で屋外に出かける機会がなくなっている。リハビリガーデン前庭で外気浴をするよう努めている。	コロナ禍により外出は困難であるが、1階を出たところに広いリハビリガーデンがあるので日常的に外気浴をしている。以前は食事会や買い物などにも出掛けていたが、現在は敷地内を散歩するなど、感染を考慮した対応になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理できる方には自分で管理して使って頂いている。それ以外の方はお小遣い程度を預かって、必要時渡している。お小遣い手帳に記入して管理している。	お小遣い程度を預かっており、本人が必要な時に渡し、お小遣い手帳に記入、管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの申し出により、自宅等へ電話している。本人用の携帯電話を本人管理の元、所持、使用して頂いている方もいる。	本人からの申し出により自宅等へ電話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感、季節感を採り入れた歌、絵、塗り絵等を貼ったり、植木、生花を置いたり飾ったりしている。不快や混乱をまねくような刺激物がある場合は、速やかに取り除き、心地よく過ごせる様、工夫調整している。また冷暖房の調整を行っている。	冷暖房での調整を行い、居心地よく過ごして頂けるよう工夫し配慮している。生活感、季節感を採り入れ、歌や塗り絵、絵等を貼ったり植木鉢を置いたりしている。	共用スペースには手作りの物を飾ったり、壁に歌詞を貼り歌ったりしている。以前は外部から歌の先生が来ていた。掃除は除菌も兼ねて職員が毎朝行ない、衛生管理に努めている。冷暖房の調整に注意しつつ、換気も適切に行っている。また、植木や生花を置き、利用者がくつろげる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にテレビ、テーブル、イス、ソファ等を置き、思い思いに過ごす事が出来るような居場所作りを心がけている。	共有室内にテレビ、テーブル、イス、ソファ等を置き、思い思いに過ごす事が出来るような居場所作りを心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に慣れ親しんだ家具や寝具を持ち込んで頂き、好きな様に配置して居心地よく過ごせるようにして頂いている。	入居時に慣れ親しんだ家具類や衣類、写真等を持ち込んで頂き、好きな様に配置して居心地よく過ごせるようにして頂いている。	備えつけられている物はエアコン・ベッド・カーテン・洗面台であり、家具などはご自身の物を持ち込んでいます。寝具や衣類、写真、色紙等、利用者にとってなじみの品を配置し本人にとって居心地良い場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の出来る事は行って頂き、本人の声を常に聴き、本人のペースに合わせた生活を送って頂いている。身体機能を維持し、安全で自立した生活が送れるよう努めている。	本人の出来る事は行って頂き、本人のペースに合わせた生活を送って頂いている。身体機能を維持し、自立した生活が送れるよう努めている。		